

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392300154		
法人名	株式会社 サン・ドリームナゴヤ		
事業所名	グループホーム六じょうや		
所在地	瀬戸市西茨町28番地		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kainokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&livingsvcCd=2392300154-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク		
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋守山区森孝3-1010		
訪問調査日	平成29年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・その人のありのままを受け入れた上で、発生してくるトラブルを知恵と工夫で乗り越えていく介護の方針である。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

瀬戸市中心部に近く、デイサービス等を併設する施設である。運営推進会議には地域代表も参加し、活発に意見が交わされ、ホームで起きた、事故・ヒヤリハットも包み隠さず報告され、それに至った経過・原因・対策など詳細に説明されている。開設前から地域との良好な関係づくりが功を奏し、地域の防災訓練にも参加し、瀬戸物祭りにはホーム駐車場がベストポジションとなるため、地域住民が多く訪れる。施設内多目的ホールを地域行事に開放するべく、検討中である。看護師が常勤で勤務し、過去には看取りも行った。職員にとって夜勤時の看取りの不安が大きい中、不安軽減に多大な役割を果たしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・そのつもりで行っている	理念として六つの感情(喜・怒・哀・楽・愛・憎)を、あるがまま受け入れる」を掲げ、「よく話し合い、ケンカも、涙も表現の一つ。最後まで社会人として自分らしく楽しんで」いただくことをめざし、『六情』を引き出す介護を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域の方と話したり、防災訓練や瀬戸物祭りに参加したりして交流している	地域代表は運営推進会議メンバーに加わっている。地域主催の防災訓練に参加したり、瀬戸物祭りには花火見学にホーム駐車場を地域の人に開放している。施設内多目的ホールを地域に開放する計画が進行中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・まだ不十分だと思われる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・そのつもりで行っている	入居者・家族・地域代表・市職員・地域包括職員・スタッフをメンバーとして、今年も6回の開催が確認された。毎月の行事・研修、事故及びヒヤリハットの経過・原因・対処などが包み隠さず報告書として提出され、同書類は事前に全家族にも配布されている。会議上で入居者から「親戚が訪ねてくるから看板を作ってくれ」と頼まれ、手作りして掲示した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・そのつもりで取り組んでいる	市との連絡は管理者が行い、人員配置・職員異動報告・苦情の相談など、電話で指示を受けている。3か月に一度ほど市役所を訪れている。担当部署の担当者は、異動があるたびに確認している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修などで禁止行為の説明を行い、そのように取り組んでいる	訪問時には玄関は解放されていた。以前デイサービスの喫茶店を利用した後、ふと目を離したすきに、スタッフ出入り口から、無断外出した入居者もあつたが、近所の人から管理者に報告があり、自分で玄関から帰ってきた。研修などでも禁止項目の徹底がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・研修で説明し、職員同士や利用者同士などの対応について、小さな出来事でも気づくことがあれば、報告するように注意を促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・そのような事態になれば活用できるように、準備しておきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・そのように努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議での発言や目安箱の設置、介護相談員の受け入れを行って、要望を表現できる機会を作っている。また、必要なら、運営にも反映するように努めている	年2回家族会を開催している。ホーム便りはないが隔月の運営推進会議資料として、行事・活動報告が写真付きで全家族に配布されている。運営推進会議は数家族が、担当者会議にはほとんどの家族が参加し、計画の見直しに加わっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・日頃の業務中や研修時や、会合時など、自由に発言できるように、常に意見を求めている	月一回、夜7～9時に有給で会議を開き、その時に各職員から、また運営推進会議でも職員から研修の事・入居者の変化が報告・提案されている。職員の研修意欲・家庭環境・将来への不安などには、管理者が帰り道で聞き出すなど努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・管理者が行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・管理者が行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・管理者が行っている		

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・そのように働きかけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・努めている	入居者は近所の人がほとんどで、4～5人の入居者は、1～3人ずつで友人が訪ねてきてくれる。墓参り・自宅訪問などは、家族支援のもと実施されている。家族と共に、外食・外泊もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・努めている	入居者の思いは、最初のアセスメントで確認し、モニタリングの都度、現在の思い・当初聴取からの相違を確認している。担当者会議にも、本人・家族が参加し、ホームぐるみで計画の妥当性が吟味されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・そのように心がけて作成している	本人・家族も参加し、担当者会議が開かれている。職員等が聞き出した本人の希望は、計画作成担当者により立案され、家族・本人を含め、吟味されている。6か月でプラン見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・そのつもりで行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・複雑な状況の中、なるべく本人が尊重されるようなサービスの提供に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・出来る範囲で地域資源を活用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・そのように努めている	基本往診医をかかりつけ医としている入居者が多い。常勤の看護師がおり、毎日医療面でのサポートが受けられるため安心感がある。外部受診は原則家族に対応してもらおうが、ホームで付き添ったケースもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・そのように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・そのように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・そのように取り組んでいる	入居時にご家族と話し合い、看取り方針について説明している。往診医が透析も対応するが、特別な医療が必要な状態になってしまう場合現状では受け入れは難しい。しかし老衰であれば看取り対応する覚悟はある。末期ガン患者の入居者を看取り対応した経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・徐々に対応できるように研修を重ねている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・現在はまだ不十分だが、そうなるように地域に働きかけていく。	年に2回避難訓練を行っており、他に町内会の防災訓練にも参加している。地域的な面もあり水害に対しても対策を考えている。町内からはAED設置をお願いされているが、費用負担について検討中。	

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・そのように努めている	プライバシー確保に努めており、また職員の言葉遣いにはその都度その場で注意し、尊厳を大切にしたい対応ができるように今後も努力していく。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自分の意思の表示を促すようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・不都合な状態にならない程度に、上手に希望にそって支援するようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・時と場合に合わせた身だしなみを誘導している。おしゃれしている時にはほめたり、感想を伝えている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事を作るのは職員が主に行っているが、たまに行うおやつ作りや毎日の片付けはお手伝いをして下さる方と共に行っている	外部の業者により栄養管理のされた食材が提供され施設内厨房で調理されている。地域住民から野菜をいただくこともあり、それを食事に活用させてもらっている。食事の準備やお茶など、入居者のできる範囲で手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・そのように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・そのように支援しようと努めている	排泄パターンを把握しトイレ誘導を試みているが、入居者の自尊心を大切にしたいので、難しい面もある。状態に応じてポータブルトイレの活用もある。清潔を保つ事に努力し支援している。随時排尿介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・そのように取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・それほど意思表示がないため、希望と共に、体調をみながら、安全で楽しく入れる時を促している。服薬チェックは記録している。	入浴の回数は原則決めているが、希望があれば回数を増やす事もある。入浴拒否の入居者にも、言葉がけを工夫し、上手に誘導して入ってもらおう努力を続けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・そのように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・主に看護師がそのように対応しているが、必要に応じて介護職員にも内容や用法は説明して、共有を促している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・集中力や好奇心が減退しがちなので、様々な働きかけを行って、少しでも楽しく生活できるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・あまり積極的な訴えがないため、定期的に外出レクを行っている。	お祭りへの参加など、イベント的な外出を多く計画して実施している。どうしてもトイレ環境の良いところへの外出が増えている。図書館や道の駅などにも日常的に行けるようにしている。ご家族には外食に連れ出してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・家族の意向もあるので、本人の能力と時と場合によって、お金を所持して、買い物してもらったりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・要望があれば、電話をかわりにかけたり、手紙の宛先を書いてあげたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・そのつもりで行っている	明るいいリビングには入居者の手作りの作品が多く飾られている。空気清浄機を使い、湿度温度管理を大切にし、換気も多くし、気持ちのよい空間作りを目指している。メダカ、カメなど小動物を飼い、やさしい気持ちの芽生えを促している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・スペースに限りがあるので、独りになる空間はないが(お部屋が個室なので)、廊下に少人数になれるソファなどを置いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・そのようにしている	家族の協力を得て使い慣れた道具や写真などを持ち込んでもらっている。入居者の状態に応じてベッドの位置を変更したり、少しでもゆったりと過ごしていただける居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・そのつもりで工夫している		